

建 築学科の機関紙でOBの金箱温春氏の記事を見て、構造設計者という職能を知った。その後、非常勤講師となった金箱氏に頼んで事務所でアルバイトをさせてもらう。実務に触れる貴重な経験を経て、構造設計を志すことを決めた。学部4年次は住宅などの実施設計が体験できる仙田満研究室で意匠設計の実務を経験した。大学院では東工大の100年記念館などで故木村俊彦氏と協働をしていた和田章教授（現名誉教授）の下で学びたいと考え、和田・坂田研究室へ。故篠原一男教授から住宅の構造設計の依頼があり、担当することになる。篠原教授の体調不良により、アンビルドとなってしまったが、設計で考えていた木造の半剛接合を研究のテーマとした。

木下洋介構造設計室設立

大学院修了後は金箱構造設計事務所に入社。特に印象に残る作品は同事務所で最後に担当した「浜松サーウ」で、意匠担当者とイメージレベルで話していた改修方法がほぼそのまま実現した。耐震改修はそのときはじめて担当したが、独立してからの仕事の軸のひとつとなった。入社8年後に独立。恩師の仙田満教授（現名誉教授）に挨拶に行った際「いつか一緒に」とエンジニアとしての木下氏を見守ってくれたと言う。それから3年後「ちくさこども園」の構造設計の依頼が。木造と鉄骨造のハイブリッドの吊り屋根を試みた。上棟式で仙田教授が喜ばれている様子が嬉しかったと言う。

自分なりのエンジニアリングを

構造設計者としての目標を聞くと「構造設計は工学という今までの蓄積を拝借して再構成する仕事。個々の物件でまったく新しい技術は生み出せなくても状況に応じた技術のマッチングはできるはず。JSCA新人賞では地場産材、地元施工の条件と木造混構造を掛け合わせて少し新しいものができたという点が評価いただいたと思っている。また、建築家の職能も多様化する中で、アトリエ事務所にはまだ多くの可能性がある。建築は息の長い仕事だと思うので経験を積み重ねながら、時間をかけて探っていきたい」と語った。

文・写真：町田有紀江



人 Human

木下 洋介さん (木下洋介構造設計室)

YOSUKE KINOSHITA

1978年1月11日生まれ 神奈川県出身 2003年東京工業大学大学院修士課程修了 同年、金箱構造設計事務所入社 11年木下洋介構造設計室設立 13年～16年工学院大学非常勤講師 16年JSCA新人賞受賞 17年～芝浦工業大学非常勤講師一級建築士 構造設計一級建築士 主な作品にオガールベース、ちくさこども園など